

# 穂の国 34. 通信

お客様の夢を喜望へ、  
喜望を製品へ、そして進化へ

あいさつ

会社の歳時記

技術の時間

ちょっとコーヒータイム

Vol.4

(有)今泉大伸 

〒441-3131

愛知県豊橋市大岩町字小山塚62-28

:0532-41-8282

FAX:0532-41-8297

<http://www.imaizumidaishin.co.jp>

## あいさつ



今回で4号目です。

もう、今年も師走の足音が聞こえてきますね！！

今年は5号目を皆さんにお伝えして終わる予定にしております。

なんと、10月の半ばまで当社では蚊が出たんですよ！！

え～～～なんで！！

蚊だって大変ですよね！！子孫残さなくてはならないし....。

え～～～私たちだって大変だ！！

だって景気よくなんないし、円高で仕事減っちゃうもんね！！

しかし、ある本に書いてありましたよ！！

自分を励ますとプラスのエネルギーが出て、運が引き寄せられるんだって。これは大切なことですよ！！

てなわけで、私は『いいこと日記』をつけ始めました。

一日いいことを思い出して、日記にしていけるものです。

最近がいいと思うことは、しようと心がけていますが、三日坊主になりそうでちょっと怖いですが。

皆さん、今年は季節性のインフルエンザも大流行しそうですし、体調には十分に気をつけてください。

また、予防接種も打ったほうが...？私は打ちます。

てなわけで今月号も、お楽しみください。

# 会社の歳時記

先日、某工作機械メーカーさんにデジタルシリンダーというものを納めました。

停止精度0.001mmで補正できるものです。

後のページでも紹介しますが、一号機は一般市販を作ったものでした。

しかし、装置にまとめきるには本当に大変でした。

まず、外観はそのまま(綺麗でなくてはダメなんですよー)。

その形状の中でいかに電子の部品を組み込み、いかに形にまとめるか大変なんです。しかし単体で売っているものには、どうしてもそのような事は考えてありませんよね！！

だからエンコーダーを作ったり...と、色々な作工が必要となってきます。自分たちの機能を満足させるために！！



当社 一号機

その機能の中で一番気にするのが、やはり外観ではないかと私は思います。

だから、外観に気をつけるのです。本機の写真は、下図のようなものです。

これからは、より技術を深めていく必要と、マーケティングを自社にて考えて行くことに、とても考えさせられました。



## 諦めないことが、未来を切り開く(前編)

今月号と来月号は、当社の電子開発の舞台裏をお見せいたします。先月『電子立国 日本の自叙伝』を見ました。

すこし、涙がうるうる！！

なぜかという、同じころ当社でもデジタルシリンダーの開発をしていて、そのころにロジック回路、マイコン回路の開発をしていたのです。

まず、始めにエンコーダーでパルス拾う、回路の着手。しかしそのころシリンダーに内蔵できるほどに小さくて、高分析能のエンコーダーがなかったのです。

そう、10年前当時は小さくすると200パルス、250パルスなどでした。

すると、どうしても分解能を上げる回路の生成が必要になってきます。

当時、それができる人に頼んだところ、基板込みで20万円でした。

(あとで分かった事だけれど、「フリップフロップIC 4個(1000円×4) + 基板」で22万円くらい)

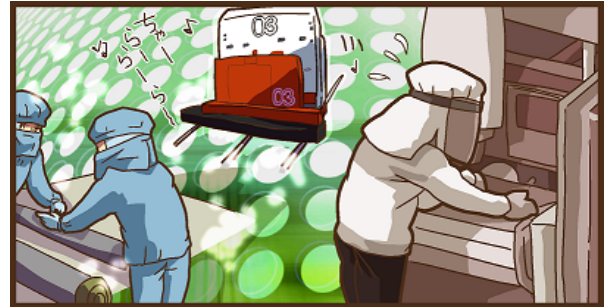
価格が10倍なんですよ！！

それにカウンター回路の作成などを入れると、一台50万くらいになってしまいました。

大きさも300×200×100ぐらいの大きさになります。

まいった、まいった...！！

そこで、教えてくれる人がいないのでひたすら勉強、ロジック回路からブール代数及びNAND、AND、Dフリップフロップ、J-Kフリップフロップ、それを組み合わせて論理回路を作成しました。



その間に、基板を自分で作成することを覚え、エンコーダーをどうマッチングさせるかなど多くの課題を経て、一号機を完成させました。

当初、前にも述べましたが300×200×100は(小野測機製)のもので、当時4倍生成回路付きのカウンターはこれしかありませんでした。

お客さんに当時、このカウンターを出したところ『小野測機のカウンターはイヤだ』大きすぎるから、御社の物にしてほしいと頼まれました。

てなわけで開発は勉強との闘いでした。

後編はそんな中、当時(10年前)D I N 44、カウンター、カウンター内蔵デジタルシリンダー、マイコン開発及びPLDなどの設計について書いていきます。



## ちょっと コーヒータイム

今日のちょっとコーヒータイムは少し紹介が遅れましたが、ここ二川宿のお祭りについてお話しをしたいと思います。

ここ二川宿は、現在は豊橋市ですが、それ以前は渥美郡二川村でした。それ以前、時代が大正、昭和初期には味噌屋、醤油屋、そして養蚕がさかんでした。ですから、豊橋のように手筒花火が盛んではなく、お祭りも山車(三町別々)が出て、若い衆がおはやしを吹いて祭りを盛り上げます。

私も若いころ、お祭り青年を行いました。特に、祭りの最後の日(例えば9、10日)特に10月10日の日には、若い衆は女性物の着物の長襦袢を着て、思い思いのお化粧をして町に繰り出します。

### おわび

前回のコーヒータイムでご指摘を受けたので、訂正致します。

× 上越の和田峠

長野県 諏訪郡 和田峠

(ご指摘ありがとうございました!!)

私などは頭にミッキーの帽子を被り、目はパンダにし、女性物のピンクの着物を着て町に出て行きました。

そこで、ある事件が…。その時、小さな子供が寄ってきました。当時、三歳くらいでしょうか？お母さんに抱かれていたのですが。

振り向いた時『ワー！！コワイよ！！』もう半泣き、お母さんも後ずさり。もう、なまはげ扱いでした。

ま、下の絵を見ていただければ御納得していただけると思いますが。

二川は、歴史的にも古く、そんなことから昔ながらの風習が残っています。

この風習も、昔はこのかっこうで女工さんたちにもモテていたそうですよ！！

時代の移り変わりは速いですよね！！そんなことを考えます。

